

ごあいさつ



一般財団法人
全日本大学サッカー連盟
理事長

中野 雄二

「アットホームカップ2025 第22回インディペンデンスリーグ【同好会】」の開幕にあたり、ご挨拶申し上げます。

本大会は、出場機会に恵まれない選手にも公式戦の場を提供することを目的として、2003年度にまずは体育会チームを対象に創設されました。そして、その翌年には同好会を対象とした本大会がスタートしました。今ではどこのカテゴリーでも当たり前となっているトップチーム以外の選手への公式戦の場を提供するという事は、当時としては画期的なものでした。また大会名になっている「インディペンデンス」は、自主・自立・独立を意味する言葉で、単に選手が試合を行うだけでなく、審判、運営など大会のあらゆる面を学生自身が担うことで、主体性や責任感を育み、成長へとつなげていくという理念が込められています。本大会の創設には、2023年に日本サッカー殿堂入りを果たされ、本連盟の理事長や顧問を歴任された国士舘大学の大澤英雄先生のご尽力がありました。

2025年2月16日、大澤先生はご逝去されましたが、その理念と想いは今なお私たちの活動に深く息づいております。大澤先生のご功績に改めて深く感謝申し上げるとともに、学生主体の運営という大会の理念をこれからも大切に継承してまいります。

これまで多くの学生が、その理念のもとでピッチ内外のさまざまな挑戦を重ねてきました。今年もまた、学生たちの挑戦が大会をより一層充実したものにしてくれると信じております。そして、ここで得た経験が彼らの未来を切り拓く力となることを、心から願っております。

最後になりましたが、長年にわたりご支援を賜っております特別協賛社・アットホーム株式会社様をはじめ、大会開催にあたりご支援・ご協力をいただいておりますすべての関係者の皆様に、心より御礼申し上げ、開幕のご挨拶といたします。



公益財団法人
日本サッカー協会
会長

宮本 恒靖

アットホームカップ2025 第22回インディペンデンスリーグ【同好会】の開催をうれしく思います。

近年、全日本大学サッカー連盟(JUFA)はさまざまな改革を行ってきました。各大会の目的や選手の志向などに合わせ、Iリーグや新人戦を創設して多くの選手に実戦経験を積む機会を提供する一方で、U-19/20世代の全日本大学選抜を編成して若い選手に国際経験の場を創出しています。そういった取り組みによって全体のレベルが向上し、Jリーグや各カテゴリー代表でも大卒選手が即戦力となるケースが見られるようになってきました。また、大会の企画から運営までを学生主導で行うことで、学生たちがマネジメントやリスク管理などを学ぶ場にもなっています。実践で身につけたノウハウは社会人になってからもいろいろな場面で生かされるでしょう。サッカーを通じて得た経験や出会いを、将来、スポーツや社会の発展のために生かしてもらいたいと思います。

本大会に出場する選手のみなさんの素晴らしいパフォーマンスを期待しつつ、激しくもフェアですがすがしい大会になることを祈っています。

最後になりましたが、特別協賛社のアットホーム株式会社様、協賛の株式会社ミカサ様をはじめ、全日本大学サッカー連盟の関係者の皆さんに心から御礼申し上げます。



アットホーム株式会社
代表取締役社長

鶴森 康史

私どもアットホーム株式会社は、「Independence League【同好会】」の特別協賛を始めてから2025年で13年目となりました。本年も「アットホームカップ」の愛称のもと、本大会は勿論のこと、学内大会や理事会・運営委員会のサポートも含めて、微力ながら皆さんの活躍をお手伝いできることを大変嬉しく感じております。

本大会の大きな魅力は、チームのプライドをかけたハイレベルな戦いもさることながら、日々の鍛錬の中で築かれていく仲間との信頼、学生自らがリーグ運営を行うことで育まれていく主体性など、若い皆さんが成長していく姿に、この国の“明日”が垣間見られることです。皆さんがここで得る経験の一つひとつが、これから社会で活躍するための礎となっていきます。そして、社会人としての歩みを始めた時、それはきっと大きなアドバンテージになっていることでしょう。

当社におきましても、1967年(昭和42年)の創業以来、「調和(共生)」を企業理念の中心に据えて、働く仲間同士の信頼を最も大切にまいりました。様々な個性を持った人材が集まり、それぞれの持ち味を互いに尊重しながら助け合い、成長することで、しっかり社会に貢献しようと取り組んでおります。これからも、この国の“明日”を担う皆さんを応援・サポートしてまいります。

最後になりましたが、本大会に関係する全ての皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。